

# 平成30年度 静岡県養護教員講習会及び養護教諭夏季研修会

平成30年8月7日（火）静岡市清水文化会館マリナートにて

## 講義「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」

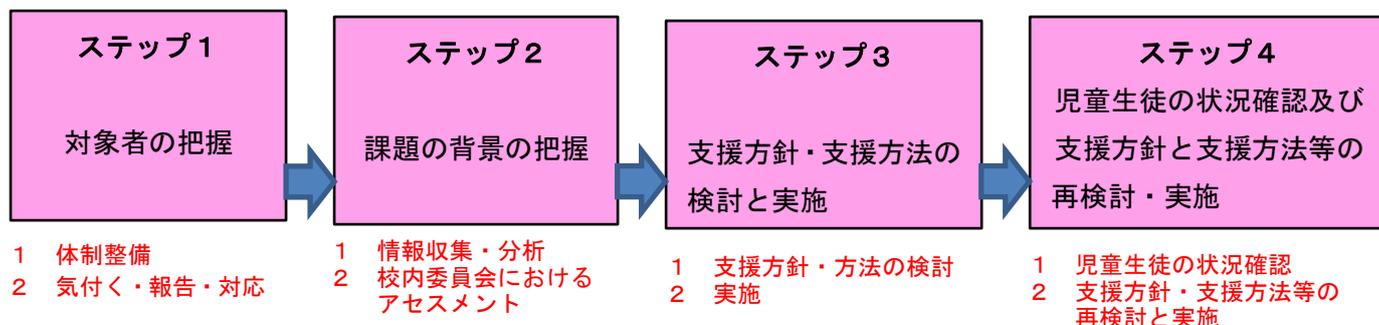
講師 文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官 松崎 美枝 氏

### 1 児童生徒の現代的健康課題（平成28年度保健室利用状況に関する調査報告書の結果より）

身体の健康に関する問題	心の健康に関する問題
<ul style="list-style-type: none"> <li>「アレルギー疾患」が最も多い</li> <li>食物アレルギーも増加</li> <li>「アドレナリン自己注射薬の処方を受けている」児童生徒は大幅に増加</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「発達障害に関する問題」が増加</li> <li>「友達との人間関係」「家族との人間関係」の問題が多く、「教職員との人間関係」も少なからず見られる ⇒人間関係のトラブルで悩んでいる児童生徒が多い</li> </ul>
養護教諭が救急処置の必要性「有」と判断した内容	健康相談における主な相談内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校 → 外科的なもの</li> <li>中学校、高等学校 → 内科的なもの</li> </ul>	<p>「身体症状」「友達との人間関係」「漠然とした悩み」が多く、その他多数⇒多様な心身の健康問題</p>

### 2 現代的健康課題を抱える子供たちへの支援

#### 様々な健康課題を抱える児童生徒の支援における4つのステップ



### 3 養護教諭の資質向上

近年、児童生徒等の健康課題等が複雑化・多様化しており、これらの課題に適切に対応するためには、学校保健において重要な役割を担っている養護教諭のさらなる資質の向上を図ることが一層重要となっている。

#### 伝達講習「平成29年度健康教育指導者養成研修」

発表者 沼津市立千本小学校 保科 靖子 磐田市立田原小学校 近藤 真美子

【保健管理の在り方】 全ての学校で正しい知識と適切な対応を身につける取組が必要である。

【保健教育の在り方】 中核としての「思考力」、思考力を支える「基礎力」、そして思考力の使い方を方向づける「実践力」の育成が求められる。

【子供の心のケア～事例を通して学ぶ不登校対応～】 担任との密接な連携が求められる。担任との話し合いは、時間をきちんと設定して行うほうがよい。

【学校における感染症対策の在り方】 流行を最小限に食い止めるためには、日常的に全員が咳エチケットを実施する。

## 【学校における救急処置に関する研修の在り方～子どもの命をつなぐ危機管理対応訓練～】

全教職員が同じ意識で取り組めるような、より実効性のある研修の在り方を工夫する。

### 講演「LGBTの基礎知識と養護教諭ができること」

講師 岡山大学大学院保健学研究科教授 中塚 幹也 氏

#### ○ 性的マイノリティとLGBT

最近は、「性的マイノリティ」「マジョリティ」といった相対的な名称でなく、L：レズビアン、G：ゲイ、B：バイセクシャル、T：トランスジェンダーとそれぞれを主体的に呼ぶことができる「LGBT」という言葉が使用されることも多い。左利きの人やAB型の人と同じくらいLGBTの人がいると言われている。LGBTは、性的マイノリティの一部の人を指すため「LGBTの中には自分はいらない。」と感じている人々もいる。

また、「SOGI」という言葉も使われている。すべての人がもつ性的指向・性自認を表し、マジョリティもマイノリティもみんなどこかに入るというグラデーションを表す言い方である。しかし、これでも言い表せない人もいる。



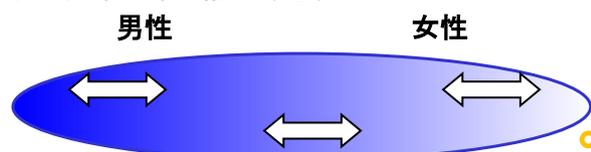
#### ○ 同性愛と性同一性障害

同性愛は性的指向（恋愛対象の性）が自身の「性自認」（多くは「身体の性」と一致）と同じ。性同一性障害は「身体の性」と性自認（心の性）が一致せず、性別違和感をもつ。同性愛なのか、性同一性障害なのか、見ただけでは分からない。小学生くらいだと本人も分からない場合もよくある。

**何に悩んでいるのか、何が辛いのか等、よく話を聴いてあげることが大切である。**

#### ○ 性はグラデーション

身体の性、心の性、好きになる性、表現する性等・・・100%男性、100%女性ということではなく、それぞれ幅がある。



体の性は男性側に寄っているかな？  
心の性は女性側に寄っているかな？  
好きになる性は？・・・服装は？・・・

#### ○ 性同一性障害における種々の問題

不登校、自殺念慮、自殺未遂等の経験率は高く、自殺念慮の最初のピークは中学生の時。その次に多いのが社会に出た時。中学生は制服やいじめの問題、二次性徴や恋愛が始まる等、様々なことが重なりしんどい時期になる。

#### ○ ホルモン療法は何歳から？

**男性ホルモン、女性ホルモンなどのホルモン療法による身体変化は不可逆的であり、慎重に開始する必要がある。このため、とりえず二次性徴を止めておく薬剤が使用される。このようなことから、二次性徴が始まる前から準備できるとよい。**そう考えると小学生の時に性別違和感をもっているかどうか、本人が隠そうとせず話ができるかどうか大切であり、親や学校の役割は重要である。二次性徴が始まって苦しんでいる場合は、緊急性があると考えて対応したい。

#### ○ 学校教育での対応

LGBTを知らないといじめの加害者になってしまうことがある。幼稚園であってもLGBTの絵本を読む等のことも可能であり、幼稚園や小学校低学年から性の多様性について教えてほしい。

人権問題で取り上げると「LGBTの人は可哀想だから助けてあげないと。」となってしまうことがある。性教育や保健体育の授業等、保健教育でも取り上げられるとよい。また、英語や音楽、社会、家庭科等いろいろな教科で取り上げることができる。

講演会等で当事者の話を聴くこともあると思うが、分かりやすい反面、その人の体験がすべてと思ってしまう子供もいる。貴重な機会を活かすには、多様な性のあり方がある中の一人の当事者、と理解してもらうために、事前に子供たちが学習しておくことが大切である。